

氏名	西浦 公子	学校名	茨城県 聖徳大学附属取手聖徳女子 中学校・高等学校
担当教科等	英語	対象学年（人数）	中学校 第2学年（17名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2019年10月～11月（8時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：英語/道徳		
2. 単元(活動)名：世界を知ろう。自分を知ろう		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業のテーマ： セヴァン・スズキのメッセージを読み取って、自分には何ができるかを考えよう！ 単元目標： ・ 現在環境保護家として活動を続けるセヴァン・スズキが伝える3つのメッセージを読み取り、自分や日本が置かれている現状について知ることで、自分にできることは何かと考える。 ・ さらに、人間ひとりひとりに、その人にしかできない仕事、その人にしか果たせない役割があることを伝え、自分の強みや関心を知り、それらを大切に作る姿勢を学ぶ。 関連する学習指導要領上の目標： 「社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。」（『中学校学習指導要領』第2節英語、1目標、(2)読むこと ウ）		
4. 単元の 評価規準	①知識及び技能	・ 英文を読んで、セヴァン・スズキの主張を読みとることができる。 ・ その主張を捉えて音読ができる。 ・ 自分の意見を、理由や具体例を交えて述べることができる。
	②思考力、判断力、表現力等	・ セヴァン・スズキの言葉から、変化を起こすために何が必要かを考え、自分の言葉で表現することができる。
	③学びに向かう力、人間性等	・ セヴァン・スズキの活動および信念について読み、世界の諸問題に関心を持ち、理解を深めようとする。 ・ 自分なりに諸問題の原因と解決策を考えようとする。
5. 単元設定の理由・単元の意義（児童/生徒観、教材観、指導観）	<p>【単元設定の理由】 セヴァン・スズキの、「世界に少しでも良い変化を起こすためにどうしたらよいか」に関する提言のレッスンである。授業者が今回の研修で学んだネパールの素材、国際理解教育の材料を含めて、生徒たちに教科書を通して考えさせるのに適していると考え、この単元を選んだ。</p> <p>【単元の意義】 本単元では、教科書およびネパールの現状を例に、世界の諸問題に触れ、自分の置かれている立場を相対化させたい。生徒たちの視野を広げたい。また、青年海外協力隊やJICAの活動を紹介しながら、自分なりの方法でこの地球上に良い変化をもたらそうとしていることを伝えることで、自分から行動することの大切さを伝えたい。その上で、その人にしかない役割があるのだから、自分の強みを知りそれを伸ばすように励ましたい。自己理解と自己受容の先にこそ他者への理解があると私が信じるからである。</p> <p>【児童／生徒観】 本学年は、在籍17名、全員女子である。中学校2年生という発達段階であり、自分が何者かについて答えを出そうともがいていたり、自分の進路に関する漠然とした不安を抱えていたりといった様子が見受けられる。また、本校は、クラスサイズが小さく、生徒ひとりひとりの抱えているバックグラウンドが比較的似通っており、自分を守ろうとする意識がとても強い。こういった他者や差異への寛容性にやや欠けるという特徴を捉え、昨年度から担任が様々な働きかけを行い、少しずつ成長が見られるようになってきた。</p>	

【指導観】

授業者がネパールを訪れたこともあり、世界の様々な状況を知り、違いを受け容れ、遠くで起きている問題に自分なりにどう取り組むかを考える機会として捉えさせたい。さらに、自分に何ができるかを考えさせることから、自分の強みに目を向ける機会にもできると考える。

6. 単元計画（全8時間）

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	英語 「世界がもし2-A だったら」	世界の現状に興味・関心を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・グレタ・トゥンベリの怒りの表情の写真を提示、世界に諸問題があることを意識する。 ・「世界がもし100人の村だったら」をこのクラスサイズに落とし込み、世界の現状を体感する。 ＊世界の現状を、より自分の身近なこととして捉えてもらえるために、「世界が2-A だったら」とした。 ・グレタ・トゥンベリが環境問題に何も対策がなされないことに怒っているということを知る。 ・このレッスンでは世界の諸問題とそれに自分なりの方法で向き合っている人について読むことを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント(グレタ・トゥンベリ写真、主張) ・パワーポイント(世界が2-A だったらクイズ) 【資料1】 ・「世界が100人の村だったら」(開発教育協会 DEAR)
			 <p>世界が2A だったら何人が英語を話す？</p>	
			 <p>17人のうち何人？</p>	
2	道徳 「世界のいろいろに触れよう」	世界の多様性に会う。	<ul style="list-style-type: none"> ・うちの返事の写真から、どのようなことが書いてあるかを読みとる。 ・ネパールの生活について、写真とその説明内容を結びつけるアクティビティを行う。 ・世界のクイズを通して、様々な国の食文化や生活について知る。 ・「日本の文化についてクイズを作ってみよう」という活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うちわ写真 ・ネパール生活の写真とその説明(日本語) ・世界のクイズ(NIED・国際理解センター)

3	英語 「Program7-1 主張を読み 取ろう」	30年前にも地球環境について演説した若者がいたことを知る。 セヴァン・スズキの主張【私たちは大きな1つの家族・生活を変えなくては。】を読みとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ネパールのゴミの様子、西川隊員の環境教育授業の様子、ラブグリーンジャパンの農場の様子を見て、その活動内容の説明と一致させる。環境問題とそれへの取り組みについて知る。 ・セヴァン・スズキについての紹介を聞く。 ・新出単語を口頭で練習し、セヴァン・スズキの主張を本文から読みとるためのペアワークを行う。 ・内容をまとめる。 ・音読の活動を入れる。セヴァン・スズキの主張が伝わるように読むことを目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・パワーポイント（セヴァン・スズキ、本文） ・パワーポイント（環境のために頑張る日本人） 【資料2】 ・本文プリント
4	英語 「Program7-2 主張を読み 取ろう」	セヴァン・スズキの主張【どの国も他のたくさんの国に支えられている】を読みとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・洋服、携帯、化粧品、大豆、魚などの製品が、どの国から輸入されているかに関するクイズに取り組む。 ・本文の“People in one country can't <u>live</u> a day without the <u>help</u> of people in other countries. People in Japan, for example, must think of people in <u>China</u> when they wear clothes. They must also think of people in Africa and South America when they eat chocolate.”の下線部に、どんな語が入るかを想像する。その後リスニング活動を行う。（地名については、地図も示す。） ・内容をまとめる。 ・音読練習をする。セヴァン・スズキの主張が伝わるように読むことを目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『「生きる力」を育む国際理解教育実践資料集』（JICA） ・パワーポイント（製品と国名、本文） ・本文プリント
				
			<p>私たちは他国の人たちに支えられている。例えばチョコレートも。</p>	
5	英語 「Program7-3 主張を読み 取ろう」	セヴァン・スズキとガンディーの言葉【自分がまず変わらなくてはならない】を読みとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の“‘If you want to see a change in the world, you must change <u>yourself</u> first.’”の下線部にどんな語が入るかを想像する。その後リスニング活動を行う。 ・音読練習をする。セヴァン・スズキの主張が伝わるように読むことを目標とする。 ・7-1～7-3の主張を復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント（ガンディー、本文）

6	英語 「ひとりの少女との出会い」	遠い国の出来事に対して実感を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7-1～7-3 それぞれの key word を絵・写真で提示し、これを英語に直しながら、本文を復習する。(セヴァン・ズスキの主張：世界の諸問題を解決するために大切なこと(信念)を確認する) ・ DVD『世界が100人の村だったら』ドキュメンタリーを観る。 <p>⇒この間に、ワークシートに記入する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① このドキュメンタリーに登場する子供の抱えている問題は何か？ ② 自分の感じたことは何か？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示物 or パワーポイント (7-1～7-3 のまとめ) ・ DVD 動画 「世界が100人の村だったら」 ・ ワークシート
7 本時	「ネパール人女の子のために、私たちに何ができるだろうか。私に何ができるだろうか。」	世界の問題を自分ごととしてとらえ、自分に何ができるかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7-3 を key word を使いながら、音読・復習する。今回の目標 『Now we must be the change and give the earth a future. What can we do?』 ・ DVD で観た子供の抱える問題をクラス全員で共有する(顔写真・前回のワークシート)。 ・ ここで挙げられた問題同士の関連性や背景についてグループで考える。 ・ 全体で共有する。 ・ DVD の少女の顔写真を、日本人の女の子の写真に換え『この子があなたの妹だったら?』として解決策を考える。 ・ 本文の最終文の we を I に変えて “Now I must be the change and give the earth a future. What can I do?” の答えを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パワーポイント (7-3 key words) 【資料3】 ・ 前時のワークシートから、子供の抱える問題をカードにしておく ・ DVD に登場する女の子の写真+日本人の女の子の写真
8	英語 「いろいろな人に触れよう」	支援の在り方について考える。 様々な支援の方法、人々の生き方等について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちにできる支援について考える。 ・ JICA 職員のビデオメッセージを観る。 ・ 様々な働き方や考え方に触れ、自分の強みを改めて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動画 (ビデオメッセージ) ・ Mundi 記事 (JICA)



「私たちには何ができる？」か考える

7. 本時の展開 (7 時間目)

本時のねらい：貧困の連鎖に目を向けさせ、これを断ち切るために何ができるかを考える。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
<p>導入 (8分)</p>	<p>1. 前時で読んだガンディーの言葉を提示する。この時、yourself のみ空所にしておく。 If you wish to see a change in the world、 you must change <u>yourself</u> first.</p> <p>2. 次の一文を提示する。 Now we must be the change and give the earth a future. What can we do?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ガンディーのメッセージを思い出しながら yourself という鍵となる語を意識できるようにする。 私たちにできることは何かを考える時間であるということ意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイント 少女の顔写真 前回のワークシート
<p>展開 (32分)</p>	<p>3. “Do you remember her?” と投げかけながら前時で観た DVD のネパールの少女の写真を黒板の中央に貼る。生徒たちが DVD を見て気づいた問題点を、女の子の顔写真の周りに貼り、クラス全体で共有する。</p> <div data-bbox="331 882 874 1153" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="331 1160 874 1265" data-label="Caption"> <p>子どもたちが DVD を観て気付いたスニータ周辺の問題点</p> </div> <p>4. “What can you do to solve these problems?” と投げかけ、これらの問題の解決方法をグループで考える。グループ内で、白紙に問題点カードを貼りながら、問題点同士の関係性や各問題の背景について気づいた点を余白に書き込む。</p> <div data-bbox="319 1505 874 1832" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="319 1839 874 1944" data-label="Caption"> <p>各班に問題点のカードを配付。問題点を分類や因果関係で整理</p> </div> <p>5. グループで考えたことをクラス全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多様な考えがあつて良かったという旨を伝える。 問題点同士の関係性を考えることで、それぞれの問題点の背景を考えるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 白紙 付箋

<p>まとめ (10分)</p>	<p>6. ネパールの少女の顔写真を、日本人の少女の顔写真に換え、“If she is your sister, what will you do?”と問いかける。</p> <p>7. 最初の問いかけの隣に、“Now I must be the change and give the earth a future. What can I do?”を貼る。</p> <p>8. ワークシートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分にとって身近な存在として意識させる。 ・ we をIとして、自分をより意識させる。 	
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <p>[知識・技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音読ができていることをペアで確認する。 ・ 振り返りシートや期末考査において、自分の意見とその理由を具体的に述べられているかを計る。 <p>[思考・判断・表現力等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書に書かれていた内容を英語・日本語でリフレーズできることを確認する。 <p>[学びに向かう力、人間性等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシート、期末考査における記述を確認する。 			
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部との連携は特にないが、『世界が100人の村だったら』のDVDを鑑賞させたことは大変良かったと考える。 			
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校内での取り組みとして、特別なカリキュラム「女性キャリア」の授業内で、中学2年生および高校1年生に対して授業を行った。今後も実施していきたい。 ・ 修学旅行でオーストラリアを訪れる中学2年生には、「異文化との肯定的な出会い」の機会の1つとして、ネパール生活カルタと、ニュージーランド、オーストラリアに関するクイズや、日本との共通点を見つけるアクティビティを行った。「日本のアニメはネパールでも人気があることが分かった。」「こどもたちの笑顔がかわいい。」「食べ物や生活など、知らなかったことを知ることができて良かった。」「景色が綺麗」などの感想を寄せている。今後、主にオーストラリアと日本の課題について扱う時間をとりたいと思っている。 ・ 高校1年生には、ネパールの現状を報告した上で、SDGsとは何かについての授業を行った。「ワークショップ型 世界が100人の村だったら」内のアクティビティも使用したが、前半で多くのことを一方的に伝えようとし過ぎてしまい、自分ごととして捉えさせ、行動に移すところまでは持っていけなかった。 			

【自己評価】

<p>11. 苦労した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界で起きている問題に関して、自分ごととして捉えさせることは思いのほか難しかった。特に、自分にできる支援を考える際に、子供たち自身の生活や社会との接点を考えさせるという視点に欠けていたために、「かわいそう」という感想で終わってしまう生徒も多かったと思う。 ・ 「なぜ、債務奴隷の制度が廃止されているにも関わらず、実際には継続されているのか」「セヴァン・スズキさんは、ストリートチルドレンの状況の改善について、何か行動しているのか」と言った興味深い疑問も提示されたが、これを授業の中で扱うことが難しかった。 ・ あくまで英語の授業として実施し、教科書の内容から、環境問題、貧困、社会課題の解決策へと理解を深めることはできたが、考える時間を確保することや、自分の意見を英語で述べる場所へと結びつけることが難しかった。
<p>12. 改善点</p>	<p>以下のように改善したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分と社会との接点＝何らかの変革をもたらすことができるチャンスについて、考える時間をとること。 ・ 疑問に思った点について調べたり、話し合ったりする時間を設けること。 ・ 自分の考えを英語で述べるフォーマットを伝え、授業1時間につき1文、英語で自己表現をする時間を設けること。

13. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分の生活を有り難いものだと感じられた。」「ご飯が食べられるのだから、残さずに食べようと思う。」などと、学んだ内容から自分の現状を振り返る言葉が見られたことは、大きな成果だと思う。
14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>以下のようなコメントから、子供たちの視野の広がりを感じる。また、教科書やDVDの登場人物に会いたいという思いを描く生徒が多かったことから、今回の授業を通して、世界の問題を同年代の友だちが抱える問題として捉えていると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の生活は当たり前ではないということに気付いた。 ・ 自分にもできることがあると思った。 ・ 世界には大変な人がたくさんいることが分かった。自分が普通の暮らしを送れていることを有り難いと思う。 ・ スニータちゃんやセヴァン・スズキさんに会って、話してみたい。 ・ 自分のことだけでなく、他の子供のことも考えられるようになりたいと思った。
15. 授業者による自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真や動画の力は本当に大きい。私の場合には、現地を訪れる前、研修中、研修後と、授業で扱いたい内容がだいぶ変わってしまった。もう少し授業プランの候補を前もって考えて、撮るべき写真をイメージしておく、より効果的な写真や動画が撮れたのではないかと思う。 ・ うちわに書かれた手紙をもらうだけで、子供たちは大変喜んでいて、世界の人と繋がる場を作るという、教育の1つの大きな役割を痛感した。 ・ 8月末の事後報告研修会の時に、様々な教材について他の先生方からアドバイスを頂くことができ、有り難かった。 ・ 「この授業はこれまでで一番楽しかったし、大切な授業だと思う。」との感想を寄せた生徒もいた。教科書を教えるのではなく、教科書で教えるという当たり前のことを、なかなか実施できないでいたが、学期に1回でも、こういった授業を行う必要があると強く感じた。

参考資料：

- ・ 『国際理解教育教材：世界の国を知る・世界の国から学ぶ「わたしたちの地球と未来」』公益財団法人 愛知県国際交流委員会 <http://www2.aia.pref.aichi.jp/koryu/j/kyouzai/index2.html>
- ・ 『ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら』特定非営利活動法人 開発教育協会 (DEAR)
- ・ 『開発教育基本アクティビティ集 1-世界とのつながり』特定非営利活動法人 開発教育協会 (DEAR)
- ・ 『身近なことから世界と私を考える授業』特定非営利活動法人 開発教育協会 (DEAR)
- ・ DVD 『世界がもし100人の村だったら』フジテレビ

添付資料：

【資料1】パワーポイント（世界が2-A だったらクイズ）

If the world were 2-A 世界がもし2-A だったら

If the world were 2-A

① Answer

① How many men



10

If the world were 2-A

② Answer

② How many Asian people



12

3: African
2.6 : American,
European

③ How many people speak English?



③ Answer

1

Chinese : 2.4人
Spanish: 1人
6500語 : 14人

④ How many people are too fat?



④ Answer

4



American : 50 spoonfuls of sugar
Japanese: 12 spoonfuls of sugar

⑤ How many people cannot eat well?



⑤ Answer

3

死んでしまう子供もいる。



【資料2】 パワーポイント（環境のために頑張る日本人）

ネパール environment のために頑張る日本人



【資料3】 パワーポイント（7-3 key words）

This is the last girl.

We met a girl from Nepal.

スニータ



•Is she happy?
Is she angry?

•『Now we must be the change and give the earth a future.

What can we do?』

•『Now I must be the change and give the earth a future.

What can I do?』